

令和6年度



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

VISION

青少年一人ひとりが幸福を追求できる
持続可能な社会を実現する





ワクワクドキドキ

国立青少年の

世界有数の透明度を誇る
▲ 渡嘉敷島 ▲

14 国立沖縄青少年交流の家
沖縄県渡嘉敷村



▲ 溢れるグリーンシャワー 三瓶山 ▲

10 国立三瓶青少年交流の家
鳥根県大田市



▲ 目の前に広がる若狭湾 ▲

21 国立若狭湾青少年自然の家
福井県小浜市



▲ 湖岸で楽しむ
▲ キャンプファイヤー ▲

23 国立吉備青少年自然の家
岡山県吉備中央町



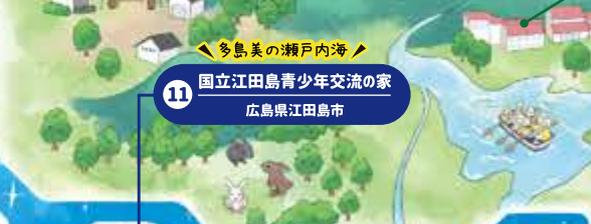
▲ 県下最大級の天体望遠鏡 ▲

24 国立山口徳地青少年自然の家
山口県山口市



▲ 多島美の瀬戸内海 ▲

11 国立江田島青少年交流の家
広島県江田島市



▲ 標高1,510mでの
▲ 高地トレーニング ▲

07 国立兼駈青少年交流の家
岐阜県高山市

▲ 満点の星座観察 スタードーム ▲

26 国立夜須高原青少年自然の家
福岡県筑前町



▲ 千年の大草原 阿蘇 ▲

13 国立阿蘇青少年交流の家
熊本県阿蘇市



▲ 愛媛県一の大河川 肱川 ▲

12 国立大洲青少年交流の家
愛媛県大洲市



▲ 360°大パノラマ 五家原岳 ▲

27 国立謙早青少年自然の家
長崎県謙早市



▲ ススキの名所 普聞高原 ▲

22 国立普爾青少年自然の家
奈良県普爾村



▲ ミニクルージング船 くらしお ▲

25 国立室戸青少年自然の家
高知県室戸市



▲ 日本三大潮流
▲ 鳴門の渦潮 ▲

09 国立淡路青少年交流の家
兵庫県南あわじ市

▲ そびえ立つ
▲ 室内クライミングウォール ▲

28 国立大隅青少年自然の家
鹿児島県鹿屋市



家に行こう!

能登の里山里海
青少年交流の家
石川県羽咋市



◀ 食育な天然雪120% ▶
19 国立妙高青少年自然の家
新潟県妙高市



◀ 十勝岳ジオパーク ▶
02 国立大雪青少年交流の家
北海道美瑛町

◀ 水質調査日本一 沙流川 ▶
15 国立日高青少年自然の家
北海道日高町

◀ 伝統的な家屋 曲がり家 ▶
03 国立岩手山青少年交流の家
岩手県滝沢市

透明度抜群!
◀ みちのくの溪流 砥沢 ▶
16 国立花山青少年自然の家
宮城県栗原市



◀ 北アルプス立山三山 ▶
20 国立立山青少年自然の家
富山県立山町

◀ 万葉集に詠まれた磐梯山 ▶
04 国立磐梯青少年交流の家
福島県猪苗代町

雨の日でも安心!
◀ 室内キャンプファイヤー ▶
17 国立那須甲子青少年自然の家
福島県西郷村

◀ 上毛三山の赤城山 ▶
05 国立赤城青少年交流の家
群馬県前橋市



◀ 国内最大級の青少年教育施設 ▶
01 国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区

◀ 木のぬくもり感じるログハウス ▶
18 国立信州高遠青少年自然の家
長野県伊那市

◀ 世界遺産 富士山の麓 ▶
08 国立中央青少年交流の家
静岡県御殿場市



国立オリンピック記念青少年総合センター: 1か所

国立青少年交流の家: 13か所

国立青少年自然の家: 14か所

ごあいさつ

国立青少年教育振興機構
理事長

古川 和



令和6年1月1日 能登半島において最大震度7を記録する大きな地震が観測されました。この地震でお亡くなりになられた方に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当機構が保有する国立能登青少年交流の家(石川県羽咋市)では、震災発生からすぐに避難所を開設し、地域の避難者の方の受け入れを行いました。その後は、被災地支援として、各支援団体の防災拠点としての活用、浴室の一般開放、リフレッシュキャンプなどを実施してきました。今もなお、震災の爪痕が残る地域のために、機構一丸となり被災地支援に取り組んでまいります。

さて、当機構は、我が国における「青少年教育の振興」及び「健全な青少年の育成」を目指し、海・山・川の自然あふれる27の地方施設(国立青少年交流の家・自然の家)と、東京都に都市型の青少年教育施設である国立オリンピック記念青少年総合センターを有し、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、科学・文化芸術・国際交流といった多様な体験活動の機会と場を長年にわたり提供しています。

また、国の政策実現に向けた取組として、SDGs達成の担い手を育む教育である「ESD(持続可能な開発のための教育)」の推進や国土強靱化への対応、地域との連携・協働の推進による地域貢献等の取組も進めています。

現代の青少年を取り巻く環境は、技術の進化、社会の変化により大きく変化し、子供・若者の貧困、精神的な負担の増加、教育・体験格差など、現代の青少年が直面する課題は多岐にわたっています。社会の多様化が進む中、これらの課題を解決していくためには、障害の有無や文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、社会教育施設、企業、団体、家庭、地方公共団体等と連携し、包括的なサポートが不可欠です。

当機構では、青少年教育の発展を目指すとともに、このような課題を解決していくため、オープンイノベーションを見据え、新たな事業や体験活動プログラムの開発等に積極的に取り組んでまいります。加えて、組織内部だけでなく外部のリソースやアイデアを取り入れ、次世代のリーダーを育成し、持続可能な社会の実現に向けた教育を推進することで、青少年が未来に向けて成長できる環境を整えています。

令和4年度、文部科学省は「子供の体験活動推進宣言」(令和4年6月)を発表し、令和6年度は最終年度にあたります。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、長きにわたって制限されてきた活動が再開し、全国にある私たちの施設にもたくさんの声が響き渡るようになりました。

当機構のビジョンである「青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会」の実現のために、7Cs(7つの行動指針)の下、「誰一人取り残すことなく、全ての子供たちに良質な体験を提供すること」を職員が一丸となって目指してまいります。また、コロナで失われた社会全体的な体験の機会を子供に限らず、広く青少年、大人たちにも提供していけるよう尽力してまいります。

令和6年度も、当機構の事業運営にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

子供の体験活動推進宣言

現代の社会を取り巻く新たな課題を創造する力、対応やレジリエンスを高める力、変化する行動をとる力等を育むために不可欠な体験活動は重要ですが、しかしながら、少子化やデジタル化、デジタル化が進む中、現代の子供たちはリアルな体験が不足しています。さらにコロナ禍でこの傾向に拍子が加わり、また、家庭の経済環境によって体験機会に格差が生じているとの指摘もあります。今こそ、異年齢交流や職業体験、自然体験、ボランティア体験等、子供たちが豊富な体験機会を確保するための施策が一体となって取り込まねばなりません。

文部科学省は子供たちの体験活動を推進するため、関係者と連携して以下の目指す取組を進めます。

- 一、 関係者の協力を促して、子供の体験活動の質的・量的な充実を目指します。
- 一、 働く人が学校や地域の活動に参加しやすい環境づくりを目指します。
- 一、 関係者との対話を促進し、体験活動における学校と地域・企業との連携体制の構築を目指します。

令和4年6月
文部科学大臣 末松信介



私たちの使命 — Mission

青少年教育の振興、健全な青少年の育成

私たちが目指すもの — Vision

青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する

私たちの価値観、行動指針 — Value

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. Curiosity | 私たちは、何事にも好奇心を持ち、 |
| 2. Change | 枠にとらわれずに変化し、 |
| 3. Challenge | 失敗を恐れずにチャレンジします。 |
| 4. Care | 私たちは、すべての人たちを思いやり、 |
| 5. Communication | 多様性を重んじ、対話と共感を大切にします。 |
| 6. Collaboration | 私たちは、多様な人々や組織と協働し、 |
| 7. Creativity | 青少年のさらなる体験の場を創造していきます。 |

私たちの公約 — Commitment

私たちはミッション・ビジョンを達成するために、28施設が一つの船に乗って、7Csを羅針盤に七つの海(7Seas)を渡っていきます。

目次

目的・シンボルマーク・沿革	6
組織・予算	7
教育事業	9
青少年教育に関するモデル的事業の推進	
1. 実践研究事業	
2. 特色あるプログラム事業	
3. 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」	
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の推進	
グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進	
青少年教育指導者等の養成及び資質の向上	
1. 青少年教育指導者等の養成・研修事業	
2. ボランティアの養成・研修事業	
青少年の体験活動等の重要性に係る普及・啓発	
・「体験の風をおこそう」運動	
・「早寝早起き朝ごはん」国民運動	
子供の貧困対策	
トピック	17
オープンイノベーションを見据えた民間企業等との連携促進	
令和6年能登半島地震における取組み	
国立青少年教育振興機構アンバサダー	
研修支援	21
研修目的の達成に向けた教育指導・助言	
活動プログラムの提供（例）	
活動の場の提供	
利用状況	
調査研究	24
調査及び研究	
成果の提供	
子どもゆめ基金事業	29
助成事業	
普及啓発	
利用案内	31
施設・設備一覧	32
施設一覧	33

目的・シンボルマーク・沿革

目的

近年、都市化、情報化、少子化等が進み、青少年を取り巻く環境は大きく急激に変化しています。また、グローバル化の進展は、世界と我が国との距離を縮め、多様な価値観を持つ人たちとの共生が求められています。

当機構は、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年をめぐる様々な課題へ対応するため、青少年に対し教育的な観点から、より総合的・体系的な一貫性のある体験活動等の機会や場を提供するとともに、青少年教育指導者の養成及び資質向上、青少年教育に関する調査及び研究、関係機関・団体等との連携促進、青少年教育団体が行う活動に対する助成を行い、我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。

シンボルマーク



大自然(緑)の中で情熱的(赤)で躍動する自立心と協調性(青)を持ち合わせる青少年をYouth(青少年)のYと重ね合わせて表現しました。

沿革

国立オリンピック記念 青少年総合センター

昭和40年4月

東京オリンピック(昭和39年)の選手村の跡地の一部を利用して、文部省所管の特殊法人オリンピック記念青少年総合センターとして発足

昭和55年5月

文部省所管の国立オリンピック記念青少年総合センターとなる

平成13年4月

文部科学省所管の独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターとなる。

国立青年の家

昭和34年4月

皇太子殿下(上皇陛下)のご成婚を記念して、国立中央青年の家を設置

以降、昭和51年までに全国13か所に国立青年の家を設置

平成13年4月

文部科学省所管の独立行政法人国立青年の家となる

国立少年自然の家

昭和50年10月

「学制百年記念事業」の一環として、国立室戸少年自然の家を設置
以降、平成3年までに全国14か所に国立少年自然の家を設置

平成13年4月

文部科学省所管の独立行政法人国立少年自然の家となる

平成18年4月、青少年教育3法人が統合して発足



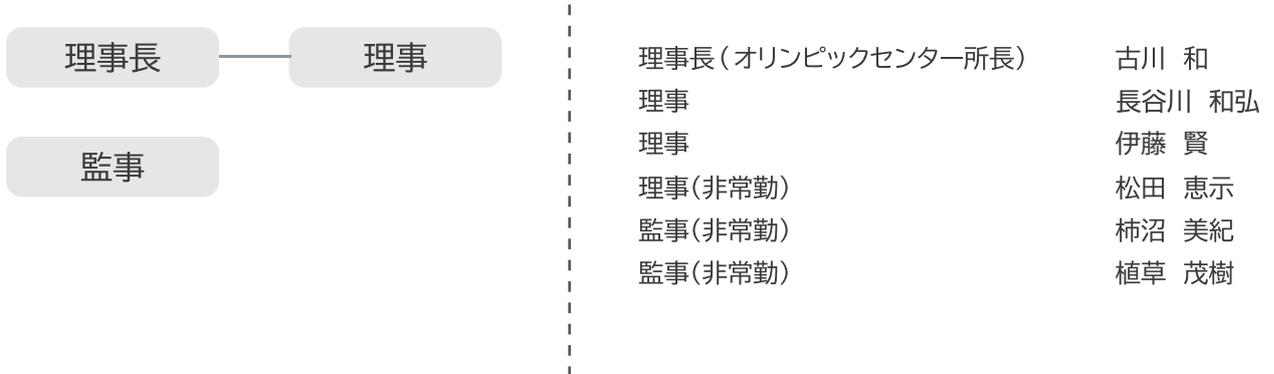
独立行政法人 **国立青少年教育振興機構**

国立オリンピック記念
青少年総合センター

国立青少年交流の家

国立少年自然の家

役員



国立オリンピック記念青少年総合センター

所長 (Director) — 所長代理 (Deputy Director)

地方施設

国立青少年交流の家(13施設) 国立青少年自然の家(14施設)

所長 (Director) — 次長 (Deputy Director)

● 交流の家

大雪・岩手山・磐梯・赤城・能登・中央・乗鞍
淡路・三瓶・江田島・大洲・阿蘇・沖縄

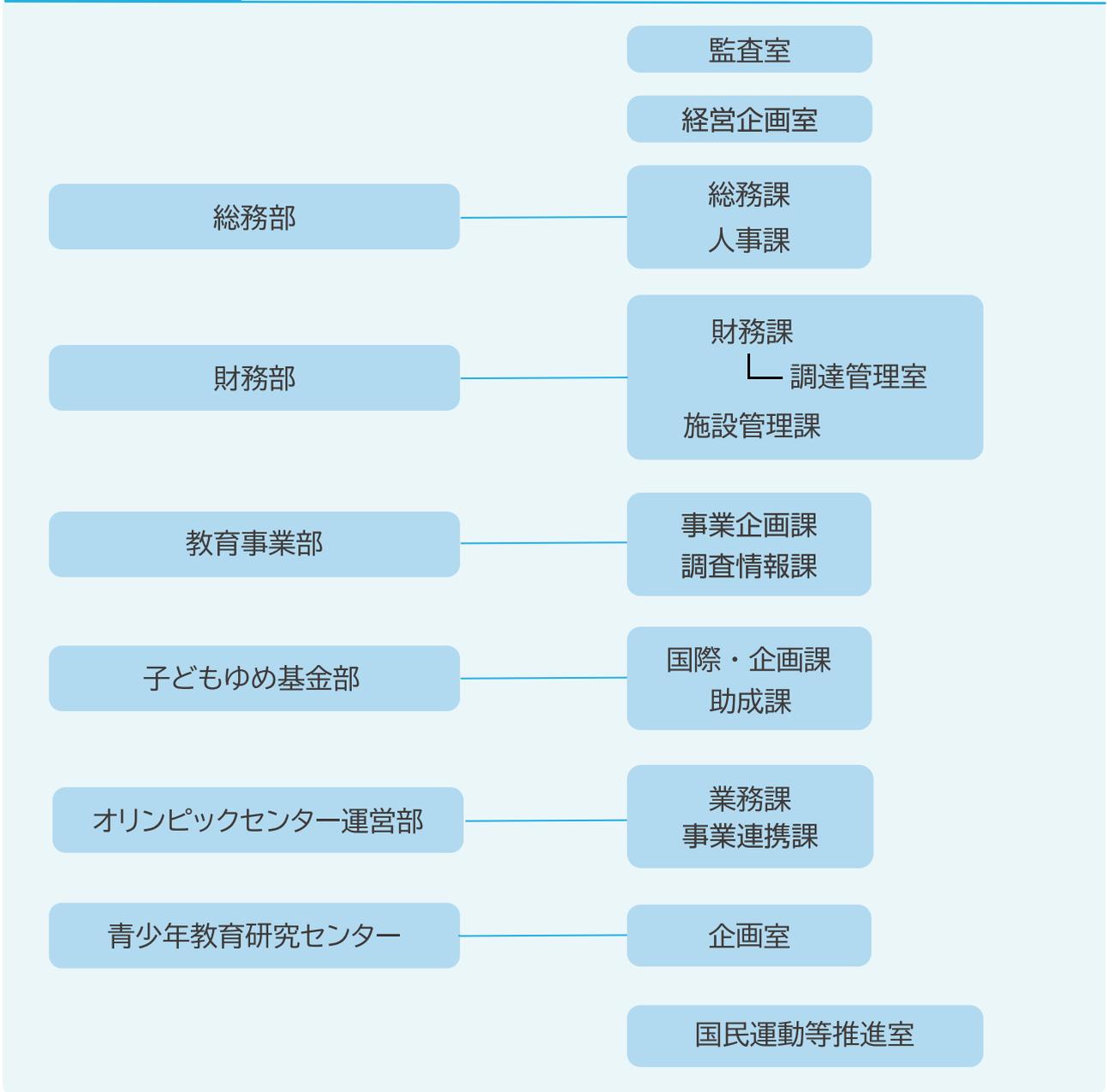
● 自然の家

日高・花山・那須甲子・信州高遠・妙高・立山
若狭湾・曾爾・吉備・山口徳地・室戸・夜須高原
諫早・大隅

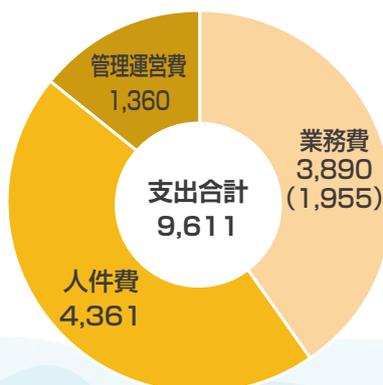
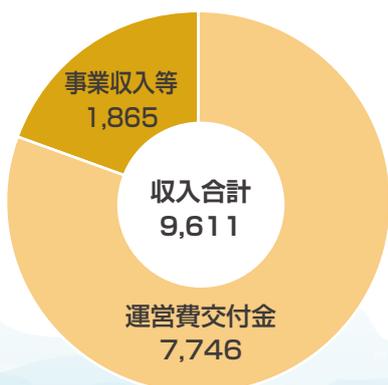
役職員数(令和6年4月1日現在)

役員：3人 職員：502人 合計：505人
※非常勤を除く

機構本部



予算（令和6年度）



注1 単位は百万円とする。

注2 ()書きは、子どもゆめ基金事業分であり内数である。

注3 区別ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、合計は一致しないことがある。

教育事業

青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を実施しています。

青少年教育に関するモデル的事業の推進

1 実践研究事業

関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で実践研究事業を全地方施設で実施しています。

事例

みんなの登山物語 ～登山を通して脳力を鍛えよう～

施設名：国立大雪青少年交流の家 参加者：小学校5・6年生23名

本事業はオンデマンドによる事前研修、2泊3日の本番と2回に分け、青少年教育研究センターと連携し、体験活動で得られる教育的効果と「探究力」向上との関連を検証するため、今まで学校で学んだ知識や経験を関連付けながら、登山の準備や実践を行うことにより、今後の学習における探究力を高める一助とすることを目的に実施しました。

事前研修では、歩く速さ、縮尺図の読み方、持っていく水分量や行動食の量を計算から求めるなど、登山計画を立てるのに必要な知識を、学校で学んだ内容と結びつけながら自ら考えてみる時間を設け、事業本番では、それぞれが考えてきた登山計画を元に、班としての登山計画を立て、出発時間や休憩時間、場所など、参加者同士が話し合いを行い、自分たちで決定することで、主体的に取り組めるようにしました。

事業を通して、登山の知識や学校で学習した知識を活用することで、小学生の力でも登山を行うことができ、学校での既習事項をもとに、等高線や縮尺を活用して、地形図から実際の距離や高度について考えることができるようになりました。



2 特色あるプログラム事業

地域の教育的課題に対応したプログラムを推進するため、特色あるプログラム事業を全地方施設で実施しています。

事例

森林環境学習「みどりの学習」

施設名：国立妙高青少年自然の家 参加者：計952名

妙高市では、小学生を対象に総合的な学習の時間等で上越森林管理署などと連携し、森林の大切さや環境保全の必要性を学ぶ「みどりの環境学習」を実施しています。

当施設でも関係機関と連携し、妙高戸隠連山国立公園内にある妙高山(2,454m)の麓に広がる大自然を活用したプログラムを森林環境学習「みどりの学習」と位置付け、妙高市が実施する「みどりの環境学習」と共同して推進を図っています。

令和5年度は、夏に行った「下草刈り体験」で出た枝木などを材として「秘密基地づくり」や「木の実クラフト」、「薪拾いと野外炊事(親子活動)」などの活動につなげるプログラムをはじめ様々なプログラムを実施しました。

すぐに答えを求めたり教えたりするのではなく、子供たちが感じたことや気づいたことを大切にしながら、自然の面白さや不思議さに気付いたり、興味関心を高めたりすることを通して主体的、対話的で深い学びの実現を目指しています。



3 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」(愛称：ちいぷろ!)

郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造できる高校生の育成を目指し、高等学校の「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れたプログラムとなっています。地域活動を行うための考え方や計画づくりを実体験から学ぶ「オリエンテーション合宿」と地域での「実践活動」を実施する『地域探究トライアル』、その実践活動での学びや内容を「地方ステージ」や「全国ステージ」で発表し、仲間と交流する『地域探究アワード』から構成されています。

事例

地域探究トライアル「オリエンテーション合宿(高校生キャンプ)」

施設名：国立信州高遠青少年自然の家 参加者：高校生9名

自然の家周辺の伊那谷地域では、山国でタンパク質が手に入りにくかったことから古くから「昆虫食」が根付いてきた地域です。今回はこの「昆虫食」をテーマに県内外の高校生が2泊3日のオリエンテーション合宿に参加しました。

フィールドワークでは、地域で最先端技術を駆使して食用コオロギの養殖を行っている会社を見学し、現在の地球規模での人口動態や食糧危機について学び、昨今、なぜ昆虫食が注目されているのかを学びました。その後は実際に地域の川で伝統漁法を用いて捕られたザザムシを活用して、ふりかけ開発・販売をした地元の高校生たちと意見交換をしました。

自然の家の敷地を流れる川でも実際に昆虫の採取も実施し、野外炊事では、地元の高原野菜を使ったカレー作りも行いました。もちろん「昆虫食」にもチャレンジして、数種類の「昆虫食」を堪能しました。

振り返りでは焚火を囲みながらグループ毎に意見交換を行い、最後は2泊3日で学んだことを発表しました。



課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の推進

青少年を取り巻く今日的課題に対応するため、企画の段階から専門機関等と連携し、特定の状況下にある青少年に対する体験活動事業を実施しています。

事例

わくわくチャレンジキャンプ

施設名：国立諫早青少年自然の家 参加者：児童養護施設22名

児童養護施設の子供たちが、沢登りやナイトハイクなどの自然体験活動、クラフト活動や野外炊事、流しそうめん体験等の様々な体験の場を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図ることを目的に実施しました。

初日の沢登りとクラフト活動、2日目の流しそうめん土台作りと材料準備等、活動を選択制にしたことで、自分の意志で好きな活動を選ぶことができたことも、積極的な取組みへつながりました。沢登りでは、初めは恐る恐る進んでいる子供もいましたが、途中からは中高生が小学生をリードし、手を差し伸べたり励ましたりする姿が見られ、流しそうめん土台づくりでは、初めての「のみ」を使っの慣れない作業に対し、真剣に取り組む姿が見られました。

連携機関のスタッフからは「普段の生活では考えられない子供たちの新しい一面が見られた。」「沢登りでは、苦戦する小学生を高校生が積極的にサポートする姿や声掛けがあり、感動した。」との声が寄せられました。



グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

国内外の関係機関・団体等と連携して、青少年や青少年教育指導者等の相互交流を行う事業、青少年の異文化理解を促進する体験型の交流事業を実施しています。

専用サイトにて、事業概要や実際に参加した方のインタビューを掲載しています。

<https://ie-program.niye.go.jp/>



事例

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

本事業はミクロネシア諸島の青少年との相互交流を通じて、自然の素晴らしさや共存することの大切さを学ぶことを目的に実施しています。日本からミクロネシアへの派遣事業では、無人島生活体験、ホームステイ体験などを行い、事業を通して日本と外国との関係や自然保護の大切さを学びます。

※令和3・4年度は、オンラインによる交流を実施。令和5年度は、ミクロネシア諸島からの訪日プログラムのみ再開。

令和6年度は、日本の子供たちを対象とした派遣事業も再開予定。



青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、安全管理をはじめ、質の高い指導者を養成することが必要であることから、国公立の青少年教育施設や青少年教育団体等の指導者を対象とした研修事業や青少年指導者になるための養成研修等の事業を実施しています。

1 青少年教育指導者等の養成・研修事業

- ① 自然体験活動の専門的な知識と技術を習得する官民共同で創設した指導者認定制度「自然体験活動指導者（NEAL）養成事業」
- ② 体験活動における安全管理及び指導・救助技術の向上を図る「体験活動安全管理研修」
- ③ 絵本に関する専門的知識や実践力等を有する地域の指導者を養成するための「絵本専門士養成講座」

2 ボランティアの養成・研修事業

- ① 機構が実施する教育事業の運営サポートや研修支援等に携わるボランティアを育成する「ボランティア養成・研修事業」
- ② ボランティアが自ら考案した事業を実施する「ボランティア自主企画事業」

青少年機構におけるボランティア活動の推進

ボランティアをするには

独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施する「ボランティア養成事業」に参加し、「法人ボランティア」として登録します。

「ボランティア養成事業」とは

目的：ボランティアに関する理論と活動に必要な知識や技術を身に付けます。

内容：ボランティア活動に必要な講義や演習(例：野外炊事、普通救命救急法等)

法人ボランティアに登録すると

全国28か所にある国立青少年教育施設でボランティア活動することができます。

- ・ 随時、養成事業を受講した施設やその他希望する施設からボランティア募集の情報が届きます。
- ・ 活動時は当機構の規程に基づき旅費(交通費、食事代相当額)の支給があります。

事例

絵本専門士養成講座

子供の読書活動の重要性が指摘される中、読書活動を推進するために、絵本に関する高度な知識、技能、感性を備えた「絵本専門士」を養成しています。

本講座は「知識を深める」「技能を高める」「感性を磨く」の3分野、30科目(50.5時間)のカリキュラムで構成されています。絵本学者、絵本作家及び編集者等の講師による絵本の歴史や概論をはじめ、読み聞かせやワークショップの技法や手法、各場面に応じた絵本活用の可能性に関する講義等、多種多様な内容の講座です。

絵本専門士は、地域での読み聞かせ会の開催、所属する幼稚園や小学校等での読み聞かせ、絵本の出版など、全国各地で活躍しています。



青少年の体験活動等の重要性に係る普及・啓発

「体験の風をおこそう」運動[®]

イメージイラスト 作：松本零士氏(漫画家)

当機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるか広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する気運を高める「体験の風をおこそう」運動を青少年団体と連携して進めています。

「体験の風をおこそう」運動ホームページ
<https://taikennokaze.jp/>



1 体験の風をおこそう運動推進委員会(50音順)21団体

- ガールスカウト日本連盟
- 国立青少年教育振興機構
- 自然体験活動推進協議会
- 社会通信教育協会
- 修養団
- 全国学校栄養士協議会
- 全国公民館連合会
- 全国子ども会連合会
- 全国児童養護施設協議会
- 全国スポーツ推進委員連合
- 全国ラジオ体操連盟
- 日本一輪車協会
- 日本キャンプ協会
- 日本子守唄協会
- 日本青年団協議会
- 日本スポーツ協会日本スポーツ少年団
- 日本PTA 全国協議会
- 日本ユースホステル協会
- 日本レクリエーション協会
- ハーモニセンター
- ボーイスカウト日本連盟

※企画推進チーム委員の所属団体 日本海洋少年団連盟、NPO法人good!、NPO法人NICE

2 「体験の風をおこそう」運動推進のための取組み

令和5年度未来を拓く子供応援フォーラム

令和6年2月16日に、「未来を拓く子供応援フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動した取組みとして、全国各地に体験活動の普及を図る取組みとして実施しました。当日は、書家の金澤 泰子さん、金澤 翔子さんをお迎えし、金澤 翔子さんによる揮毫(きごう)や、金澤 泰子さんによる「子供の可能性を育てる体験活動・生活リズムの向上等の視点」と題したご講演をいただきました。

このほか、企業と学校教育をつなぐ体験活動の場の提供についてのパネルディスカッションや学校・企業・行政等、青少年教育に関わる団体が集い、つながりをつくる場としてポスターセッションを行いました。



特別講演の様子(金澤 泰子様、金澤 翔子様)



ポスターセッションの様子

キッズフェスタ

体験活動の面白さや楽しさを味わうことを通じて、日頃から様々な体験に取り組む気持ちを育むことを目的として、子供やその家族を対象にキッズフェスタを開催しています。令和5年度は10月28日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センター及び代々木公園を会場に「秋のキッズフェスタ2023」をおこない、延べ2,502名に会場いただきました。

様々な「体験」を楽しむ一日を!をテーマに、秋にちなんだ「スポーツの秋」「食育の秋」「アウトドアの秋」「文化芸術の秋」の多種多様なブースや、体験の風をおこそう運動応援団によるスポーツ教室など、32の団体・企業にご協力いただきました実施しました。

また、今回は新たな取組みとして子育て世代の保護者を対象にした「サポートブース」を新設し、小さな子供連れの保護者の方の子育てへの悩みにも寄り添う場を作る事ができました。



3 「体験の風をおこそう」運動推進事業

- 「体験の風をおこそう」運動推進委員会では、年間を通じて各地域で様々な体験の機会や場の拡充に向けた社会的機運の醸成に取り組んでおり、本運動に賛同して実施する事業や、「子ども体験遊びリンピック」へのエントリー団体・施設を募集しています。

※これまで本事業は、毎年10月を推進月間と定めて実施していましたが、より多くの体験を子供たちに提供できるよう、通年で登録いただく事としました。その為、令和5年度より事業名を「体験の風をおこそう」推進月間事業から「体験の風をおこそう」運動推進事業に変更いたしました。

「体験の風をおこそう」運動推進事業
推進事業のうち「子ども体験遊びリンピック」^(※)

令和5年度参加団体 945団体(2,184事業)

令和5年度参加団体 116団体(262事業)

^(※)「子ども体験遊びリンピック」とは、「体験の風をおこそう」運動推進事業にて競技性のある活動(遊び)を体験する取組みです。

4 ガイドブック「体験・遊びナビゲーター」

自然の中での体験や遊びを紹介した「体験・遊びナビゲーター」や体験活動を行う際に必要な知識や技術を紹介した「体験・遊びナビゲーター 2」、幼児と親子で簡単にできる遊びを紹介した「体験・遊びナビゲーター 3」を全国の青少年施設や図書館等に配布しています。

これらの情報は、以下のサイトからダウンロードできます。

<https://taikennokaze.jp/navigator>



5 「体験の風をおこそう」運動応援団

平成25年度から、各界で活躍する方々を応援団に任命しています。応援団の皆さんと一緒に本運動の普及啓発を進めています。

任命年度	現在活躍している応援団
平成26年度	立石 諒 氏(ロンドンオリンピック水泳男子平泳ぎ銅メダリスト)
	サンプラザ中野くん(ミュージシャン)
	柴田 亜衣 氏(アテネオリンピック水泳女子自由形金メダリスト)
	能城 秀雄 氏(100kmウルトラマラソン2009年世界ランキング1位)
平成27年度	種田 恵 氏(北京オリンピック水泳女子平泳ぎ日本代表)
	佐藤 弘道 氏(NHK「おかあさんといっしょ」第10代目体操のお兄さん)
	下山 和大 氏(2000年、2012年一輪車世界チャンピオン)
平成28年度	堀越 正己 氏(元ラグビー日本代表)
	坂本 功貴 氏(北京オリンピック体操男子団体総合銀メダリスト)
平成29年度	大山 加奈 氏(元バレーボール日本代表)
平成30年度	生山ヒジキ 氏(なわとびパフォーマー)
	根木 慎志 氏(元車椅子バスケットボール日本代表キャプテン)
令和元年度	ミツル&りょうた 氏(体操&うたのお兄さんユニット)
	川上 直子 氏(元女子サッカー日本代表)
	千田 健太 氏(ロンドンオリンピック男子フェンシングフルール団体銀メダリスト)
	三浦 豪太 氏(登山家&プロスキーヤー)
令和2年度	岡野 雅行 氏(元サッカー日本代表)
	朝原 宣治 氏(北京オリンピック陸上男子400mリレー銀メダリスト)
令和3年度	池谷 直樹 氏(元体操選手)
	波戸 康広 氏(元サッカー日本代表)
	大友 愛 氏(元バレーボール日本代表)
令和4年度	伊調 馨 氏(女子レスリングオリンピック4連覇)
	瀬川 晶司 氏(プロ棋士)
	恐竜くん(サイエンスナビゲーター)

6 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

平成25年度から、各地域の青少年教育施設や地方公共団体・学校・民間団体等が連携・協力して「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」を実施しています。

令和5年度は、国立青少年教育施設28か所と地方公共団体等の実行委員会12団体の計40団体が、地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動を推進しています。

「早寝早起き朝ごはん」国民運動

子供たちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。

しかし、最近の子供たちは、この必要不可欠な基本的生活習慣が大きく乱れており、その乱れが学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。

このような状況に鑑み、「早寝早起き朝ごはん」の励行など幼児期からの基本的生活習慣の確立を目指して、平成18年に「早寝早起き朝ごはん」国民運動がスタートしました。

国や都道府県をはじめ、各地域や学校でそれぞれの実態に即した多様な取組みが展開されたことで、様々な成果がでています。



「早寝早起き朝ごはん」全国協議会ホームページ
<https://www.hayanehayaoki.jp/>



- 毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合が、運動開始前と比べると大きく増加しています。

1 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会は、子供の望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させ、読書や外遊び・スポーツなど様々な活動に取り組んでもらうとともに、地域全体で家庭の教育力を支える社会的気運の醸成を図るための「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進するために設立されました。PTAをはじめ、青少年・スポーツ・文化関係・読書活動・食育推進等の諸団体、企業など、幅広い関係団体等で構成されています。

当機構では、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の事務局を運営し、この国民運動を積極的に推進していきます。

会長：遠山 敦子(元文部科学大臣) 設立：平成18年4月24日 会員数：314
※令和6年3月現在

2 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の取組

① 普及・啓発資料の作成・配布

「早寝早起き朝ごはん」の取組みがどのようなもので、どのような効果があるのかを知っていただくために、各年齢期に合わせた普及・啓発資料を作成・配布しています。

② ニュースレターの作成・発行

会員や都道府県に向け、データや活動報告等を記載したニュースレターを3か月ごとに発行しています。

③ 「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊事業

全国各地で、クイズや紙芝居等を行うなど、子供たちに「早寝早起き朝ごはん」に興味を持っていただけるようPRを行っています。

④ 「早寝早起き朝ごはん」全国フォーラムの実施

専門家による講演やトークセッション等を通し、子供の生活リズムの重要性に対する知識や理解を深めることを目的として実施しています。



<https://www.hayanehayaoki.jp/download.html>
各種資料はこちら



第11回秋のキッズフェスタ

子供の貧困対策

近年、「こども大綱」(令和5年12月22日閣議決定)が策定され、子供の貧困に対する取組みが政府全体で進められています。

当機構においては、子供たちの生活習慣の確立や体験活動の充実のため、

①「生活・自立支援キャンプ」、②子どもゆめ基金による支援、③学生サポーター制度の3つの事業を行っています。

1 生活・自立支援キャンプ

困難な環境にある子供を対象に、体験活動を通じて、規則正しい生活習慣や自立する力を身につけるための「生活・自立支援キャンプ」を実施しています。令和5年度は、児童養護施設を対象に17事業、ひとり親家庭等を対象に23事業、その他9事業、合計49事業を実施しました。

2 子どもゆめ基金による支援

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合は、通常は助成対象外とされている参加者の交通費、宿泊費などの自己負担経費について、参加する子供の負担を軽減するために助成の対象としています。令和5年度は子どもゆめ基金助成活動として111件を採択しました。

3 学生サポーター制度

当機構では経済的に困難な状況下で大学や専門学校において勉学に励む、児童養護施設または母子生活支援施設に在籍していた学生を支援する「学生サポーター制度」を設けています。

学生サポーターには土日や長期休暇期間に当機構の施設で「生活・自立支援キャンプ」をはじめとする各種事業や施設運営の補助に従事(年間400/600/800時間から選択)していただき、報酬として毎月定額(従事時間数に準じた額)が支給されます。

事例

学生サポーター

3施設で7人の学生が、大学等の学業と両立しながら学生サポーターとして業務を行っています。

令和5年度 学生サポーターの声

国立オリンピック記念青少年総合センター 齋藤 志乃さん

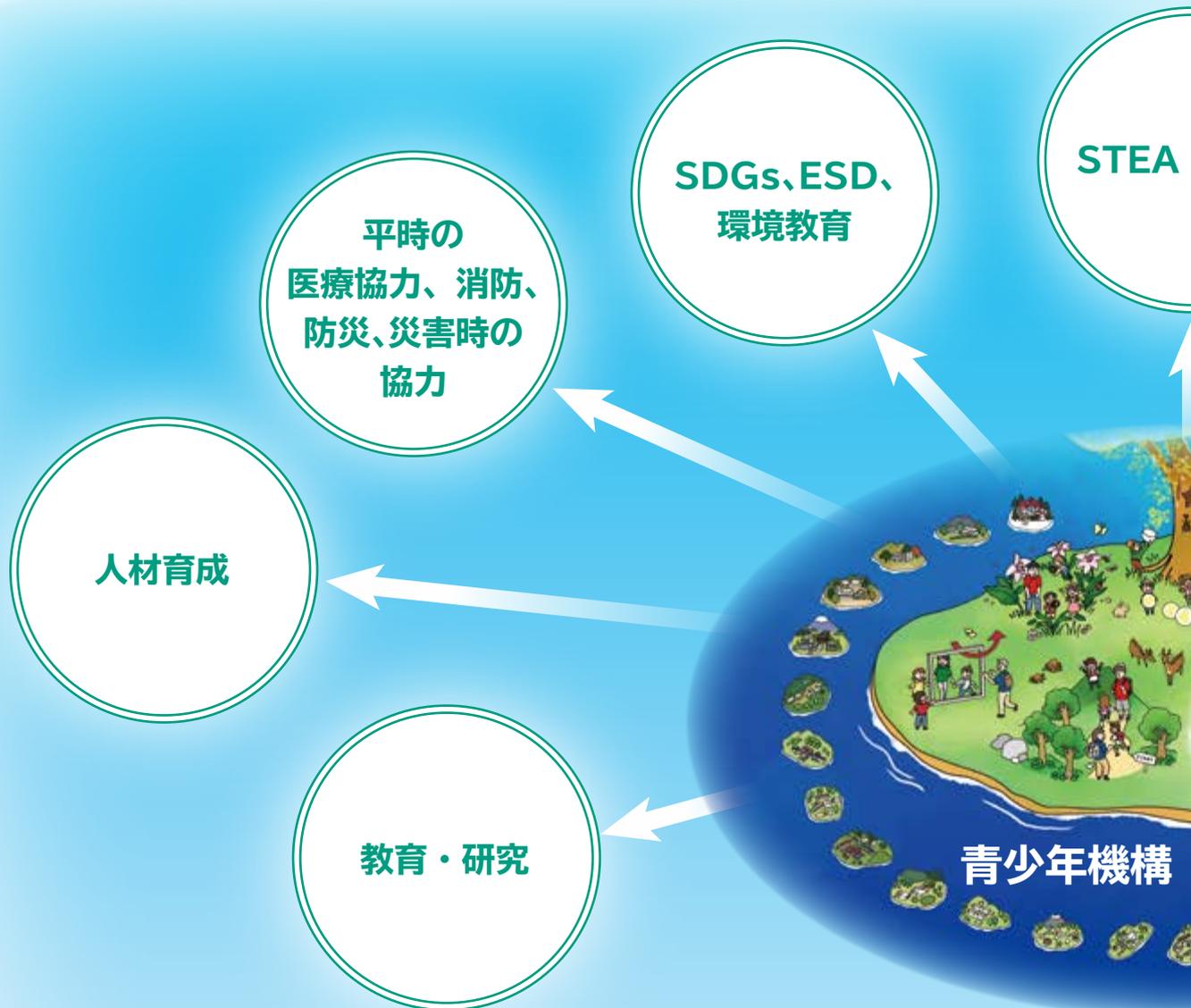
私は令和5年度から学生サポーターとして活動しています。

昨年度は主に施設の環境整備や各事業の運営補助を行いました。

特に、9泊10日で行われたサマースクールの運営補助では、子供たちが自分自身で考えながら様々な行動ができるよう、自然体験や文化体験といった体験活動、グループ活動において指導・助言を行いました。

学生サポーターとしての活動は、子供たちとの交流を通じて自己成長を実感できる貴重な経験です。自然体験や文化芸術体験などを通じて子供たちの可能性を引き出し、共に成長できることにやりがいを感じています。青少年教育施設だからこそできる仕事や出会いが貴重な学びに繋がっていることが魅力です。





事例

1 SEA TO SUMMIT for Children

Sea to Summitは㈱モンバルが実施している、人力のみで海(カヤック)から里(自転車)、そして山頂(登山)へ向かうプロセスで、自然の循環を肌で感じながら自然への理解を深める環境スポーツイベントです。モンバルとの共創により、青少年の生きる力を育み、SDGsを推進する目的で企画し、機構施設の地域性を活かした奥行きのある自然体験イベントとして実施しています。



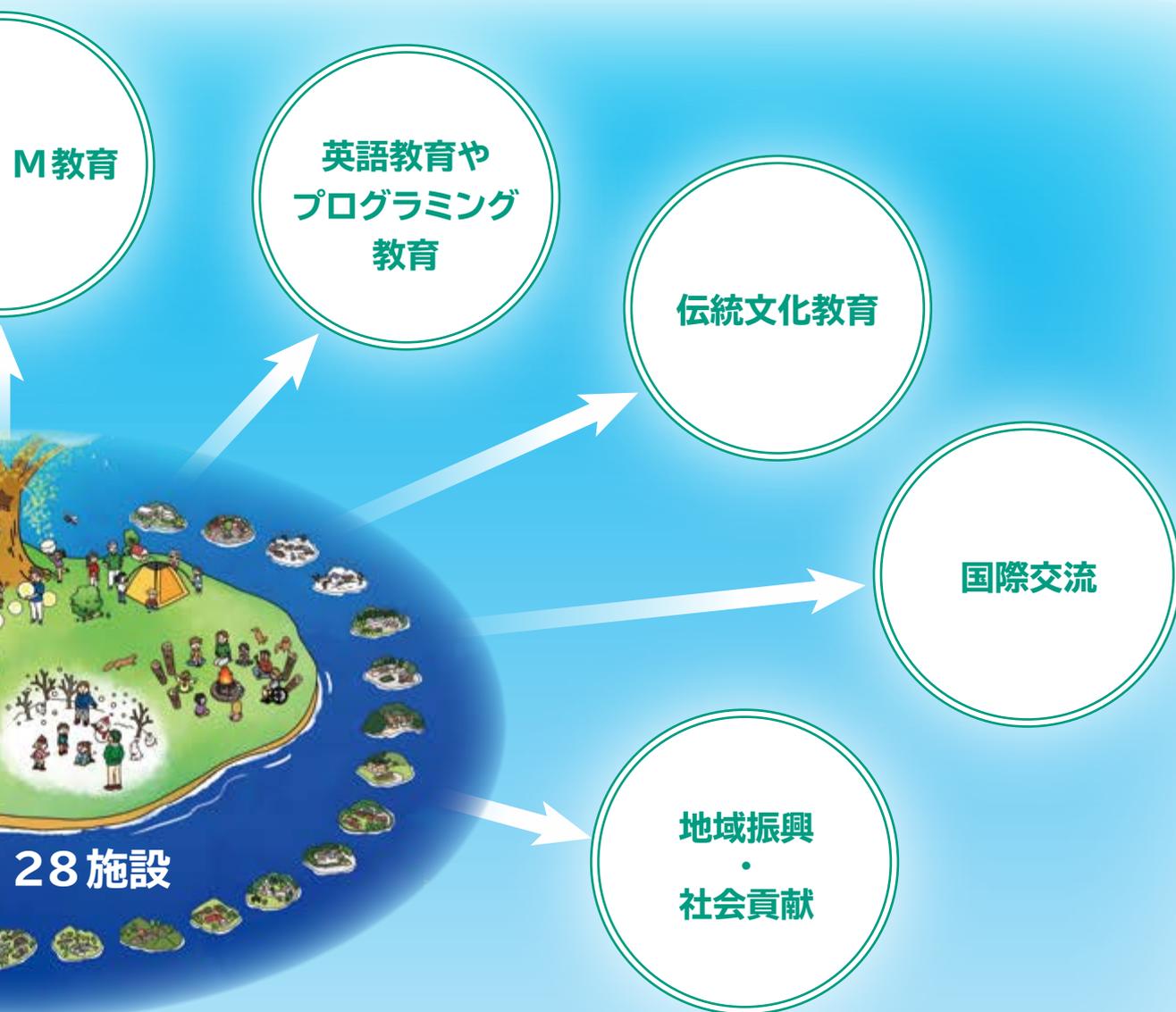
事例

2 タイガー魔法瓶株式会社

子どもたちの防災意識と災害対応力の向上や STEAM 教育、地方自治体等との連携による防災教育等の実施をとおして、防災教育を促進し、社会や青少年が直面する課題に対応することで、健全な青少年を育成することを目的としてタイガー魔法瓶株式会社と包括連携協定を締結しました。震災のあった、能登においては防災教育の一環として野外炊飯器を用いた、防災ご飯作り体験を実施しました。



連携促進



事例

3 阿蘇医療センター

国立阿蘇青少年交流の家と阿蘇医療センターは、相互の資源・機能を活かし、感染症・傷病等の治癒協力、医療研修、環境教育、防災教育及び人材育成等を推進し、持続可能な地域社会の実現発展に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。



事例

4 春のキッズフェスタ2023

「すべての子どもたちの笑顔のために」を主題に掲げ自己肯定感や意欲、忍耐力などの「非認知能力」と言われる学力テストなどでは数値化されない、子どもの将来や人生を豊かにする力、いわゆる「生きる力」を育むことを目的に官民一体では初の開催となる「春のキッズフェスタ2023」を株式会社ラフ&ピースマザー及び株式会社CANVASとの共催で開催しました。国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)を会場に124の体験プログラムを実施し2日間(2023.5/27～28)で約15,000人の来場がありました。



令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対して、機構は活動プログラムの提供や宿泊施設等の提供による支援を展開しました。

事例 1

リフレッシュキャンプの実施

被災した児童・生徒に、自然に親しみながらの体験活動を提供し、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会を提供するため、被災地域の小中学生を対象にしたリフレッシュキャンプを実施しました。

区分	実施場所	事業数	参加者数
リフレッシュデイキャンプ	能登	7回	163名
笑顔キャラバン隊	七尾市立小丸山小学校	3回	355名
リフレッシュ春キャンプ	能登・立山	3回	143名



事例 2

宿泊施設等の提供

能登には多くの方が避難し、避難所として受け入れられました。また、断水の影響で自宅での入浴が困難な被災者に対し、1月10日～3月31日の期間、定期的に浴室の無料開放を行い、延べ約1万人の利用がありました。浴室開放時には体験・遊びコーナーも開設し、卓球やボードゲーム等が楽しめるスペースを提供しました。

また、発災直後から官公庁はじめ医療関係者、ボランティア団体など復興関係者を受け入れるとともに、羽咋市との福祉避難所協定に基づき輪島市のグループホーム入所者31名、寮や自宅が被災したことにより通学が困難な生徒の二次避難所として2校56名を受け入れられました。



トピック

国立青少年教育振興機構アンバサダー

国立青少年教育振興機構の取組みを広く発信することにより、機構のイメージアップ及び認知度向上を図るため、令和6年度より国立青少年教育振興機構アンバサダー（以下機構アンバサダー）を設置しました。

機構アンバサダーには、それぞれの知見や専門性を活かして、国立青少年教育振興機構の魅力を紹介する活動やイベントの参画、PRなどに携わっていただきます。

● 国立青少年教育振興機構アンバサダー

氏名	所属・役職
五十嵐美樹	東京都市大学特任准教授、サイエンスエンターテイナー
岡田 武史	株式会社 今治、夢スポーツ代表取締役会長 公益財団法人日本サッカー協会副会長
金澤 翔子	書家
隈 研吾	建築家 東京大学特別教授・名誉教授
増田 明美	スポーツジャーナリスト
藪内佐斗司	彫刻家

（令和6年4月現在 五十音順、敬称略）

研修支援

学校や青少年団体、青少年教育関係者等が、目的やねらいに応じた主体的で効果的な活動を行うことができるよう、全国28か所にある教育施設において広く学習の場や機会を提供し、研修目的達成に向けた、より効果的なプログラムの提案や教育的指導・助言等を行っています。また、社会性や規則正しい生活習慣を身につけることができるよう、共同での宿泊体験の中に、朝夕のつどいの場や、標準生活時間等を設けています。

研修目的の達成に向けた教育的指導・助言

初めて研修を行う団体、これまで以上に研修効果を高めたい団体等、利用団体のニーズに合わせた効果的な研修が実施できるよう教育的な指導・助言を行っています。

1 効果的な研修計画策定のための支援

- 団体引率者、指導者に対する事前打合せ
- 活動プログラムの提案や活用事例の提供
- 講師、関係機関・団体に関する情報の提供



2 指導者等の指導力向上のための支援

- 指導者等の指導力向上を支援するための相談・研修等の実施
- 各種教材の提供

活動プログラムの提供(例)

利用団体の研修目的やねらいの達成に効果的な各種活動プログラムを設けています。

1 施設の立地や季節の特色等を活かした活動プログラム

- 登山・ハイキング（春～秋）

自分の能力を最大限に発揮することで達成感を味わうことができます。
また、自然を観察しながら森を散策することで豊かな感性を育てることもできます。



- カッター（夏）

10～20人ほどでオール(櫂)を漕いで進む艇のことです。
仲間と協力することの大切さを学んだり、全力を出し切ることで大きな達成感を得ることができます。



● 沢登り・沢あそび

源流の探検や、水辺の生き物観察などを通して、自然の中で感性を育み、環境を大切にできる態度等を養うことができます。



● 文化・芸術体験

貝殻や枝木を使った写真立て作り、和紙工芸、科学おもちゃ作り等のクラフト活動は創造性を豊かにし、感性や表現力を養うことができます。また、地域と連携した歴史・文化学習等を実施することもできます。



2 発達段階に応じた活動プログラム

● 自然を活用した幼児期の運動プログラム

幼稚園・保育所相当の年齢向けの活動プログラムとして、子供たちが主体的に遊びながら自然と関わり、健康な心と体を育むことができます。



● 教科等に関連付けた体験活動プログラム

小学生・中学生向けの活動プログラムとして、施設で体験する活動プログラムを各教科等に位置づけることができるよう、単元のねらいに合わせた学習指導案等を作成しています。



※上記以外にも、施設ごとに特色ある活動プログラムを提供しています。



活動の場の提供

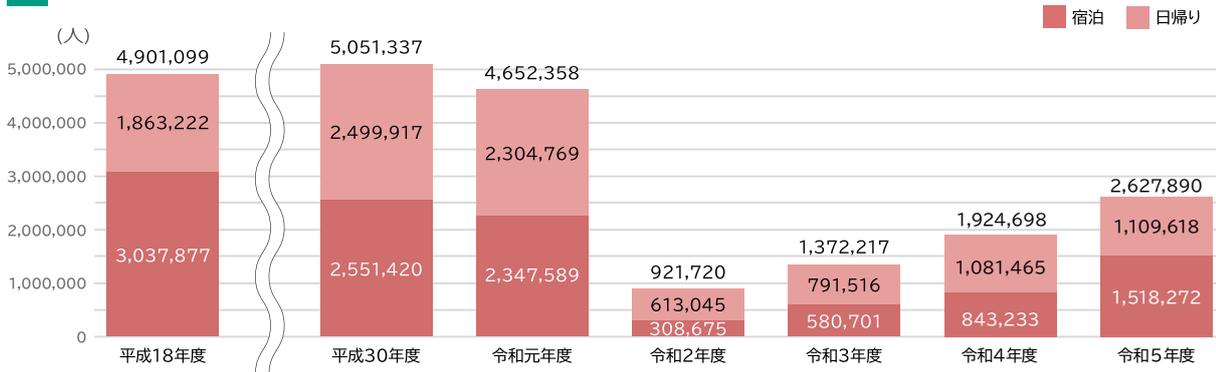
施設の立地を活かした自然豊かなフィールドや各種研修、スポーツ活動、レクリエーション活動、演劇・音楽活動等が実施できる研修室等をご利用いただくことが可能です。

※各施設の設備詳細についてはP.32「施設・設備一覧」をご覧ください。



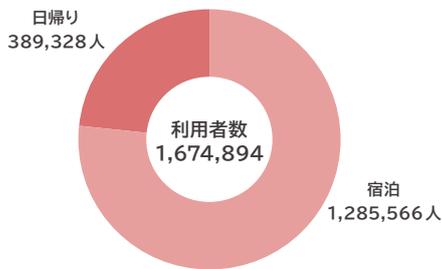
利用状況

1 総利用者数

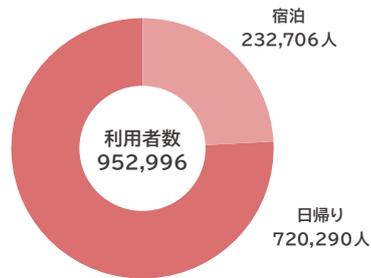


2 宿泊・日帰り別利用状況(令和5年度)

27教育施設
(オリンピックセンター除く)

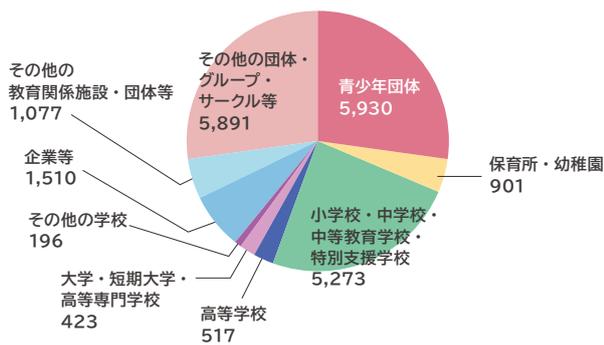


オリンピックセンター

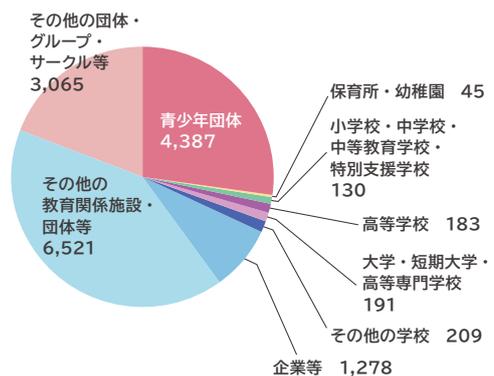


3 団体種別の利用状況(令和5年度)

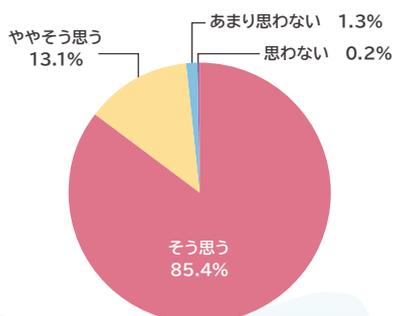
27教育施設
(オリンピックセンター除く)



オリンピックセンター



4 リポート意向(施設をまた利用したいと思いましたが?)



青少年教育に関する基盤的及び課題別の調査研究を行い、その成果を広く提供・活用することにより青少年教育の振興を図っています。

調査及び研究

青少年及び青少年教育に関する情報を収集・分析し、統計資料の作成や青少年教育関係文献のデータベースの構築を行うなど、基盤的及び課題別の調査研究を計画的かつ継続的に実施しています。

成果の提供

調査研究や教育事業等の成果をまとめた報告書等を発行し、全国の青少年教育関係機関・団体等に配布しています。また、これらの情報はホームページからも閲覧することができます。

●インターネット等による提供

①青少年教育情報センター所蔵資料等検索サービス

当機構が発行した調査研究報告書や研究紀要等の全文データ等を含めサイト上で閲覧、ダウンロードできます。



②YouTubeチャンネル

青少年教育研究センターが実施したオンラインイベントのアーカイブ等を公開しています。



③Facebookページ

最新の調査結果や青少年教育研究センター関連のイベント情報等を発信しています。



1 国立青少年教育施設における傷病の概況(令和4年度調査)

毎年度国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証して、施設の安全性の改善や安全対策の充実に資することを目的とした調査を行っています。

調査結果を教育現場での安全意識の向上につなげてもらうため、指導者用のチラシを作成し、利用団体に配布して啓発しているほか、当機構のHPで公開しています。

●安全は楽しい活動の第一歩(令和5年度作成)より



指導者用チラシ
ダウンロード

<https://www.niye.go.jp/wp-content/uploads/2024/04/anzen2024.pdf>

2 青少年の体験活動等に関する意識調査

青少年の自然体験や生活体験等の実施状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について、全国規模の調査を平成18年度から実施しています。

● 主な調査結果(「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和4年度調査)」報告書(令和6年3月)より)

- ① 放課後や休日に、保護者が子供に活動的な過ごし方を希望しているのに対して、青少年は家でゆっくりできる過ごし方を希望する傾向がみられる。
- ② 世帯年収200万円未満と1,200万円以上の両方で、青少年の放課後や休日の過ごし方の満足感が低い傾向がみられる。
- ③ 青少年は、保護者や自身が希望するほどの体験ができていない。
- ④ 令和元年と比べると、コロナ禍を経て、青少年の体験活動が減少している。
- ⑤ 「あの人のようになりたい」と思う大人は有名人が4割程度で最も多い。なりたいたいと思う大人がいないという割合は、学年が上がるにつれて増加し、高校生では3割程度となっている。

＼ここに注目しました／

青少年は、保護者や自身が希望するほどの体験ができていません。

小学生には1年間の学校外での体験活動として「実際にしたこと」を、その保護者には1年間の学校外での体験活動として子供に「してほしいこと」をそれぞれ尋ねて回答の比較を行いました。小学生の保護者が「とてもしてほしい」または「少ししてほしい」と回答した割合は13項目のうち12項目で9割以上であり、各質問に「してほしい」と答えた割合も1割未満でした。

中学生と高校生に対して、1年間の学校外での体験活動として「実際にしたこと」と「したいこと」を尋ねて回答の比較を行いました。「農業や林業、漁業での勤労や生産を体験すること」、「商店(お店)や会社などで実際の職業を体験すること」、「外国の人と話したり、遊んだり、一緒に生活したりすること」は、体験の希望と実際の体験活動の実施との差が大きいという実態が分かりました。



報告書

<https://koueki.net/user/niye/110376019-1zentai.pdf>



概要

https://koueki.net/user/niye/110376019-1gaiyou_r4ishikichousa.pdf

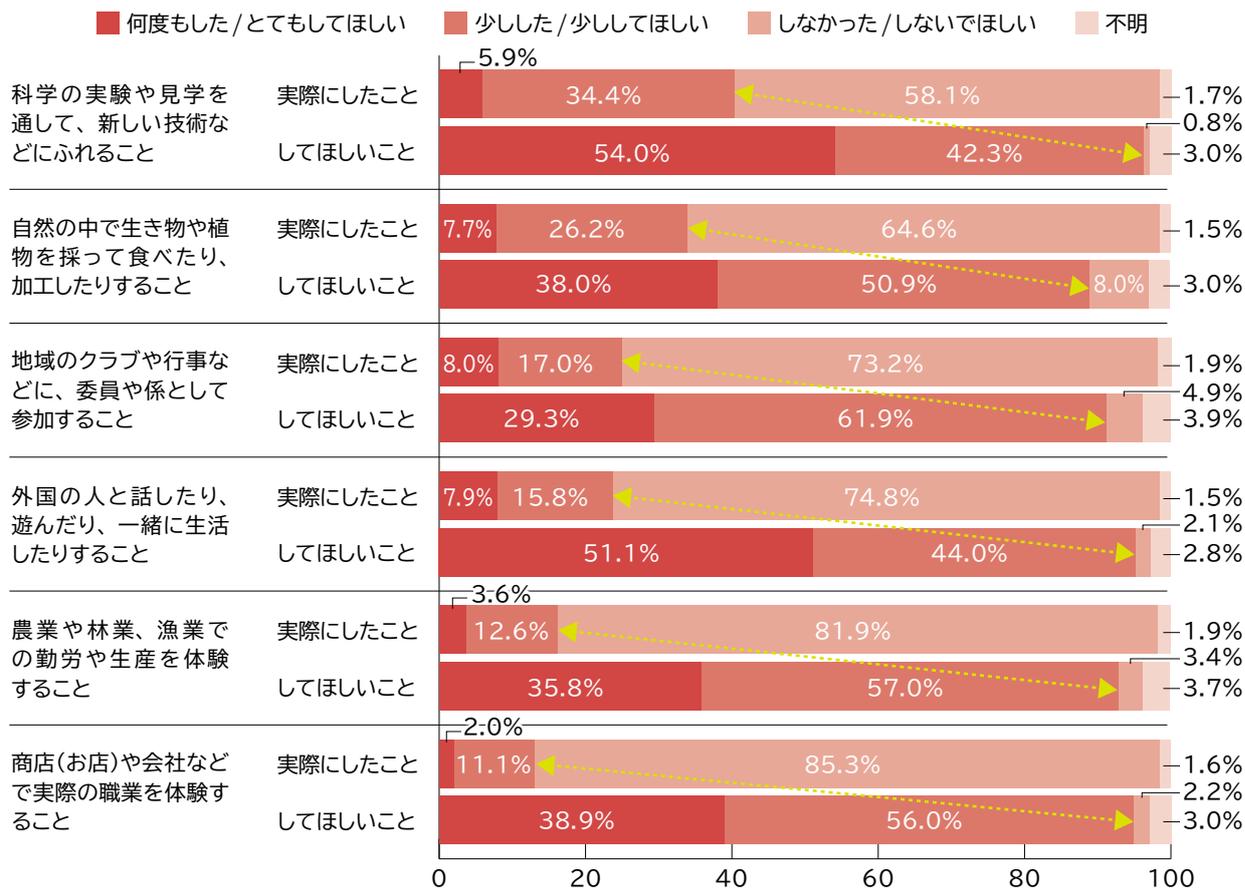


図1 1年間の学校外での体験活動(実際にしたこと、してほしいこと)(小学生の保護者) ※差の大きな項目を抜粋

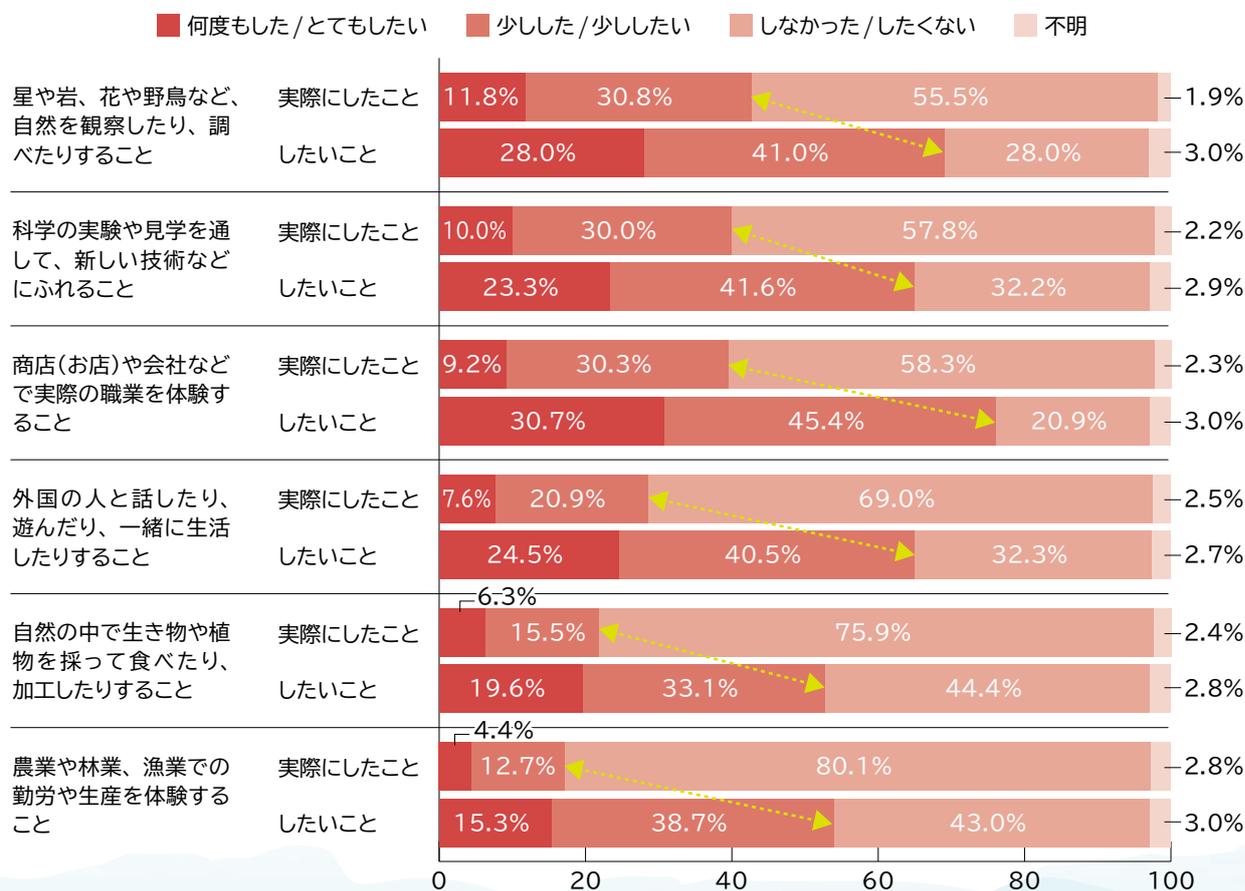


図2 1年間の学校外での体験活動(実際にしたこと、したいこと)(中2、高2) ※差の大きな項目を抜粋

3 高校生の進路と職業意識に関する調査 —日本・米国・中国・韓国の比較—

毎年度テーマを設定し、その意識や実態を把握することを目的とした高校生対象の調査を米国、中国、韓国、日本で同時に行い、日本の高校生の特徴や課題を分析しています。令和5年度のテーマは、「高校生の進路と職業意識」で、日本の高校生の主な特徴として次の5つがあげられることが分かりました。

● 主な調査結果(「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—(令和5年6月発行)」より)

- ① 進路にかかわる活動への関心が高く、学習も行われているが、実際の体験が少ない。
- ② 「仕事」「働くこと」のイメージは「生活のため」「社会人としての義務」が強い。
- ③ 職業選びにあたって、「仕事の環境」「安定性」「自分の興味や好みに合っている」を重視している。
- ④ 10年前と比較して、「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい」「仕事よりも、自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」と考えている割合が上昇している。
- ⑤ 今の生活に満足しているが、将来への不安が強い。

ここに注目しました／

日本の高校生は、進路にかかわる活動への関心が高く、学習も行われているが、実際の体験が少ない。

日本の高校生は、「職業の種類や内容」「進路選択の方法」を「学習したことがある」と回答した割合が8割強となっており、米中韓を大きく上回っています。また、「職業の見学」「就業体験」に「関心がある」と回答した割合が6割以上と高いですが、それらの「取組をしている」と回答した割合は、いずれも約1割と最も低いです。

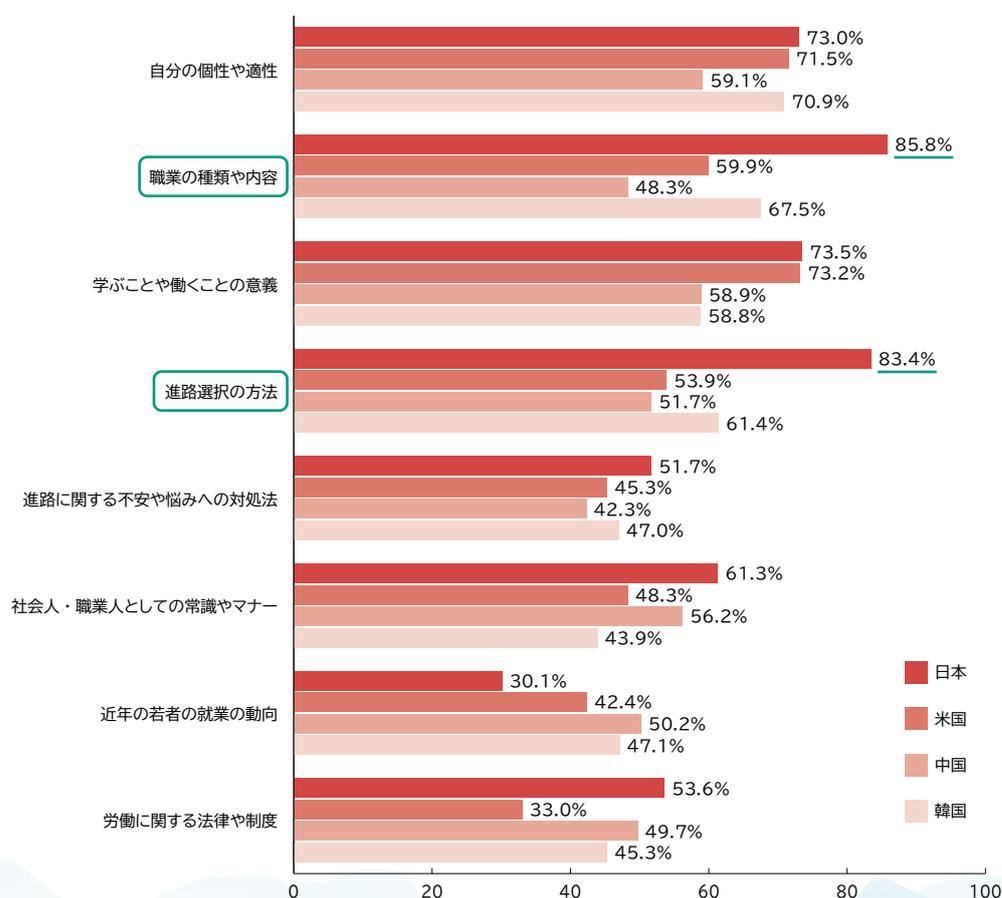


図1 将来の生き方や進路についての学習(「学習したことがある」と回答した割合)

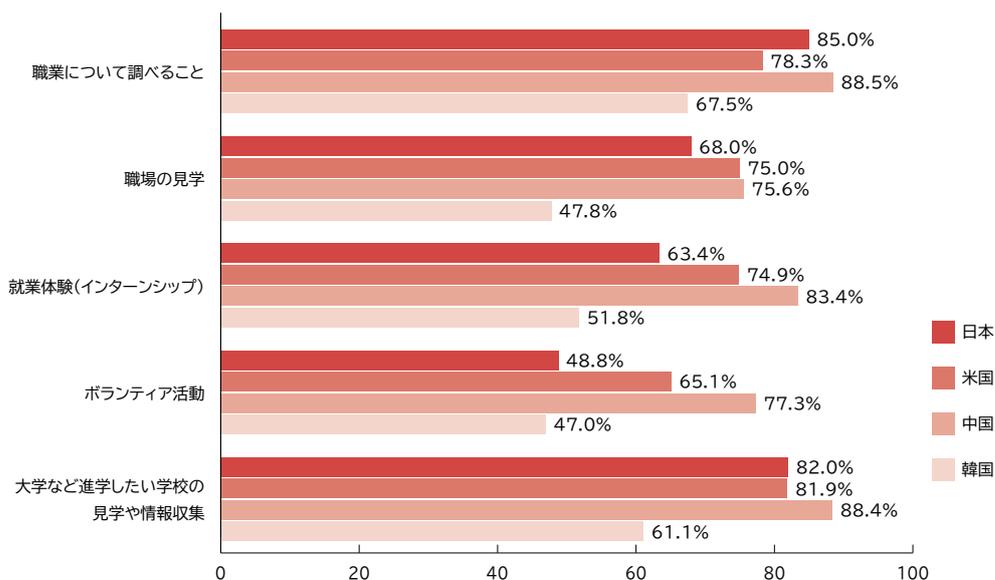


図2 将来の生き方や進路にかかわる活動への関心(「関心がある」と回答した割合)

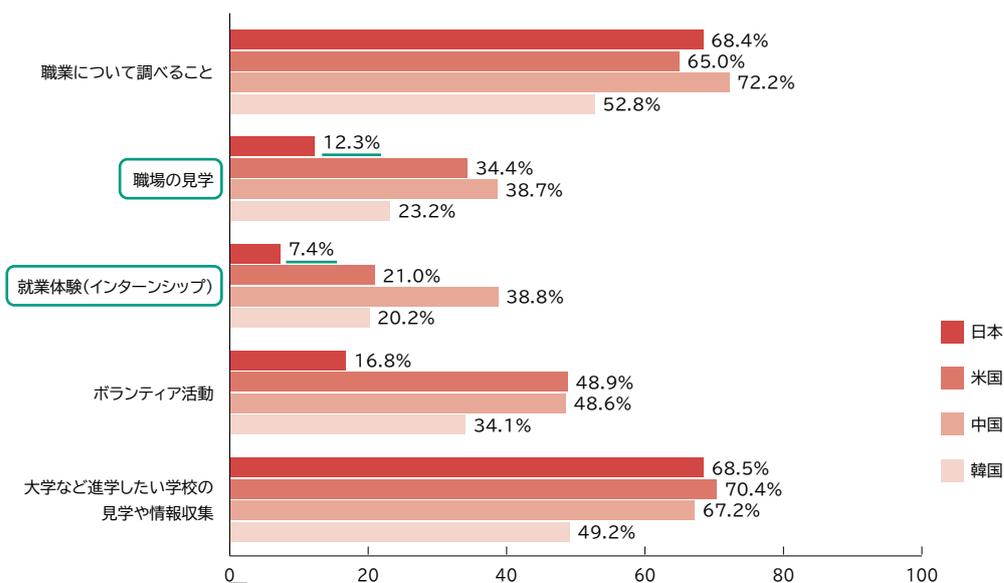


図3 将来の生き方や進路にかかわる活動への取組(「取組をしている」と回答した割合)



報告書

<https://koueki.net/user/niye/110373404-1zentai.pdf>



概要

<https://koueki.net/user/niye/110373404-1gaiyou.pdf>

子どもゆめ基金事業

『子どもゆめ基金』は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

未来を担う夢を持った子供の健全育成を推進するため、民間団体が実施する自然の中でのキャンプや科学実験教室等の体験活動、絵本の読み聞かせ会等の読書活動、子ども向け教材を開発・普及する活動への支援を行っています。

イラスト/西村キヌ



助成事業

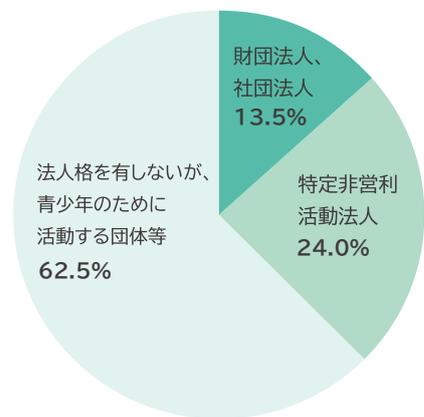
令和5年度 申請・採択状況(一次募集・二次募集)

活動分野	申請件数	採択件数	採択率	交付決定額(千円)
子どもの体験活動	3,486	2,901	83.2%	1,210,043
子どもの読書活動	352	309	87.8%	129,963
教材開発・普及活動	27	12	44.4%	75,657
合計	3,865	3,222	83.4%	1,415,663

1 助成の対象となる団体

- 財団法人や社団法人
- 特定非営利活動法人
- 法人格を有しないが、青少年のために活動する団体等

令和5年度団体種別申請状況



2 助成の対象となる活動

- ① 体験活動(子どもを対象とする活動・子どもを対象とする活動を支援する活動)
- キャンプや自然観察等の自然体験活動
 - 科学実験教室等の科学体験活動
 - 文化・芸術、スポーツ等を通じ、交流を目的とする体験活動
 - 清掃活動等の社会奉仕体験活動
 - 地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
 - フォーラム等普及活動や指導者養成事業 等

事例

キッズ&ジュニアサイエンス ～薬の不思議編～

団体名：学校法人新潟薬科大学 活動日：令和5年7月15日、16日、10月1日
募集対象：小学校1～6年生、中学生

小中学生を対象に、薬に興味を持ち、正しい飲み方や知識を学ぶことを目的に薬の実験教室を実施しました。シロップ剤と水、お茶、ジュースを混ぜて比較することで、薬と飲み物の相互作用について学んだり、ラムネを用いて散剤を作ったり、作った散剤をもとにカプセル剤を作り、どれが早く溶けるのか、それぞれの剤型の特徴について学びました。さらに、処方せんをもらい軟膏を作って、薬を渡す実際の薬剤師の仕事を体験するなど、薬についての正しい飲み方や知識について理解を深める機会となりました。



② 読書活動(子どもを対象とする活動・子どもを対象とする活動を支援する活動)

- 読み聞かせ会、読書会活動
- フォーラム等普及活動、指導者養成事業 等

事例

見えない見えにくい子どもと本をつなぐ

団体名：NPO 法人弱視の子どもたちに絵本を 活動日：令和5年7月9日
 募集対象：大学生、一般成人、視覚障害者、ボランティア

視覚障害児の読書活動を支援するためのフォーラムを開催しました。今回は、視覚障害についての理解を深めるため、絵本「みえなくなっちゃこくか」の著者で全盲の三輪途道氏から「見えない」を理解するための講演や見えない子供に伝わる本について考えるワークショップを行いました。視覚障害者、絵本と子供をつなぐ人、点字や音声ボランティアの方々にとって、新たな視点に気づく機会となりました。



③ 子ども向け教材開発・普及活動

- インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

事例

発掘って遺跡だけじゃない!コモンジョ(古文書)を発掘して「昔」から自分のことを発見してみよう

団体名：武蔵野大学古文書研究所

子供たちが身近なところから古文書かもしれない物を見つけることから活動を始めます。古い手紙や葉書、難しい文字だらけで読めない物、古文書かどうかかわからないものでも、見つけたら近くの図書館や郷土資料館、博物館を活用して手がかりを得て、地域の中に飛び出して昔の痕跡の中に自分のルーツや歴史発見、過去との対話、先祖とのつながりをフィールドワークする地域社会体験を展開する教材です。



<https://dig.mu-komonjo.com/>

普及啓発

子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。

普及啓発事業

全国的な規模で子供たちの体験活動や読書活動の重要性を普及・啓発する機会を提供するため、例年、以下のような事業を実施しています。

1. ミクロネシア諸島自然体験交流事業
2. 日中韓子ども童話交流事業
3. 「子どもゆめ基金ガイド」の作成・配布
4. 少年の主張全国大会
5. 子どもの読書活動推進フォーラム 等



作成した絵本の発表会
 (日中韓子ども童話交流事業)

利用案内

利用できる団体

青少年団体、スポーツ少年団、学校、部活動、サークル、地域の子ども会、企業、家族等で次の条件を満たす団体であれば、どなたでもご利用いただけます。

- 成人又は青年の引率責任者を定めている。
- 具体的な研修目標や計画を持っている。

※ご利用にあたっては、青少年及び青少年教育関係者の団体を優先いたします。



利用料金 ※利用料金については、税率改定等の理由により変更となる可能性があります。

(1) 地方施設使用料

幼児(年少以上)	300円/泊
子供(小学生～高校生)	600円/泊
大人(18歳以上)	2,500円/泊[学生は1,200円/泊]

※上記の他、利用期間や利用区分により一部免除制度を設けております。詳細は各施設HPよりご確認ください。

(2) 食事料金(3食)：計2,000円程度

(3) その他

一部活動プログラムに係る料金等、別途費用が発生するものがあります。

※国立オリンピック記念青少年総合センターの施設使用料は、上記と異なりますのでHP等でご確認ください。(https://nyc.go.jp)

利用手続き

① 各施設にお電話にてお問い合わせいただくか、ホームページからお手続きください。

※利用日・利用人数・利用目的等を確認させていただきます。

② 利用申込書をご提出ください。

③ ご予約確定の連絡をいたします。

④ 活動プログラムの調整・利用相談をお受けいたします。

※団体の種類や利用時期等によって申込方法が異なる場合があります。

主な施設

■国立青少年交流の家 ■国立青少年自然の家

- 宿泊施設 ● 研修室・会議室 ● 野外活動施設 ● キャンプ場 ● 野外炊事場
 - 多目的グラウンド・体育館等各種スポーツ施設 ● レストラン ● 売店 ● 浴室 他
- ※施設により多少異なります。

■国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

- 宿泊施設 ● 研修室・会議室 ● 大・小ホール ● リハーサル室 ● 音楽室 ● 演劇室
- 美術室 ● 和室 ● 体育室 ● テニスコート ● 国際会議室 ● レセプションホール
- 野外活動広場 ● レストラン ● 売店 ● 浴室 ● コインランドリー ● 大型車輛駐車場
- サービスコーナー(コピー・FAX、宅配便、手荷物預かり等) 他

ご利用に関するご相談・ご予約は、各施設へ直接お問い合わせください

施設・設備一覧

実施可能な活動プログラムについては、各施設のHPをご覧ください。

各施設の詳細はこちら



	青少年交流の家											青少年自然の家																								
	大雪	岩手山	磐梯	赤城	能登	乗鞍	中央	淡路	三瓶	江田島	大洲	阿蘇	沖縄	日高	花山	那須野	信州	妙高	立山	若狭湾	曾爾	吉備	山口	徳地	室戸	夜須	黒崎	諫早	大隅							
研修関連棟	講堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	オリエンテーション室													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	環境学習館			○												○													○							
	クラフト棟	○																												○						
音楽室	○	○		○																										○						
体育館・プレイホール	体育館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○※1	○※1		○※1				○															
	プレイホール													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	バドミントン	6面	4面	4面	6面	6面	6面	9面	4面	4面	3面	4面	4面	3面	2面	1面	2面	2面	2面	3面	4面	2面	3面	3面	3面	3面	4面	3面								
	バレーボール	2面	2面	2面	2面	2面	2面	3面	2面	2面	2面	2面	2面	2面	1面					1面	2面	1面	1面	2面	2面	2面	2面	1面								
	バスケットボール	1面	1面	1面	2面	2面	2面	3面	1面	1面	1面	1面	2面	2面	1面		1面	1面		1面	1面		1面	1面	2面	2面	2面	2面								
	フットサル	1面	1面		1面	2面※	1面					1面	1面	1面	1面					1面	1面				1面		1面									
	柔道			○																○	○					○										
武道場	剣道	○	○	○	○	○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	柔道	128畳		50畳	72畳				136畳		261畳	196畳	256畳	147.5畳																						
	弓道場			○					6人立		6人立																									
海洋研修施設								○		○										○					○				○							
グラウンド	400mトラック		○	○					○																											
	サッカー		○	○					○	○	○	○	○	○	○								○					○								
	ソフトボール		○	○					○	○	○	○	○	○																						
	フットサル								○		○	○	○	○																						
多目的広場	○※1	○	○※1	○					○	○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
野球場		ソフト	軟式・ソフト					軟式・ソフト			軟式・ソフト				硬・軟・ソ	○※1																				
テニスコート	2面		3面※2	2面	2面		4面	4面	4面	2面	4面	3面	1面	7面※1													1面									
スキーゲレンデ			リ※3			○								○※1	○※2			○※	ソリ							草スキー	草スキー	草スキー								
ディスクゴルフコース		9H			27H	9H	9H	15H		18H	9H	9H		9H	9H		9H			18H	9H	18H					18H	18H								
グラウンドゴルフコース		12H※2				8H	8H			8H			16H	9H※2									8H													
プロジェクトアドベンチャー		○		○											○		○										○									
フィールドアスレチック																																				
キャンプ場		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
野外炊事場	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
オリエンテーリングコース		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
マウンテンバイクコース		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
サイクリングコース					○																															
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 卓球場 ■ クロスカントリーコース(16km) ■ 多目的ビーチコート ■ 高地トレーニングコース(全長2km) ■ クラウドウォール(9.6m) ■ 天体観測 ■ 鏡力トレーニング器具 ■ 卓球台(2台) ■ 卓球台(2台) ■ 屋内プール(167m×13m) ■ グリーンアドベンチャー ■ 砂像広場(9.2m×6.2m) ※ 小生用プール ■ 卓球場 ■ 和室 ■ ウォーターライコース ■ グリーンアドベンチャーコース ■ アクティビティホール ■ プレイホール ■ サバイバル広場(幼児が活動できる屋上エリア) ■ 卓球場 ■ ネット(ハイキングコース) ■ 天体観測(15m口径型天体望遠鏡) ※1 天体の撮影用望遠鏡(200mm口径) ■ ※2 ネット(10m口径) ■ ※3 天体望遠鏡(15m口径) ■ ※4 天体望遠鏡(15m口径) ■ ※5 天体望遠鏡(15m口径) ■ クロスカントリーコース(5.2km) ■ ※1 森のそば(おとも) ■ 森のそば(おとも) ■ 森のそば(おとも) ■ 浴室 ■ 温泉 ■ バックゴルフコース(9H) ■ 天文広場 ■ クラウドウォール ■ いろいろ庵 ■ 茶室 ■ 沢登りコース ■ フランニング周回コース ■ 屋外バスケットボールコート ■ タッチパネルカー移動式水浴槽 ■ クラウドウォール ■ 球台(15台) ■ ※1 サイクリング場(おもしろ自転車) ■ 天体観測(510mm反射式望遠鏡) ■ ネット(10m口径) ■ ネット(10m口径) ■ フットボール ■ テニスコート ■ 室内キャンプファイヤー ■ 天体観測 ■ クラウドウォール ■ 卓球台(2台) ■ ハイキングコース ■ キンポール用具 ■ 幼児用アスレチック ■ リンクリングゴルフコース ■ ハイキングコース ■ ウォーターライコース ■ 水泳場 ■ ストドール ■ 多目的棟 ■ チューブソリコース(170m) ■ 立山(1600m) ■ 射撃望遠鏡 ■ フラットリウム(42席) ■ 球台(2台) ■ クロスカントリーコース(3.5km) ■ 幼児用遊歩道 ■ ハイキングコース ■ クロスカントリーコース(約1km) ■ ソリコース ■ ※1 森のそば(おとも) ■ レイルランニングコース ■ マレットゴルフ(18H) ■ フラットリウム ■ 天体観測(300mm反射式望遠鏡) ■ グリーンアドベンチャー ■ フットボール(6面) ■ ウッドチップロード ■ ※1 伊那市立野球場(レインコート) ■ ※2 ミニバスケットボールコート ■ 室内キャンプファイヤー ■ 卓球台(4台) ■ キンポール用具 ■ 那須野原公園 ■ わくわくひろば(幼児が遊べる屋外エリア) ■ ※1 那須野原公園(那須野原) ※1 那須野原公園 ■ ※2 ネット(82.6m) ■ ひたか冒険の森(幼児が遊べるアスレチックや沢) ※1 日高町立野球場 ■ ※2 バックゴルフコース ■ ホクシニング ■ クロスカントリーコース(2.5km) ■ レスリング用マット(2面分) ■ 天体観測 ■ 卓球場(10面) ■ トレーニング室 ■ クロスカントリーコース(15km) ■ 屋外フットサルコート(2面) ■ テニスコート(兼用) ■ クラウドウォール(屋内・屋外) ■ 卓球場 ■ カヌー研修センター ■ 輪投げ ■ 卓球場 ■ 水泳場 ■ 茶室 ■ キッズスペース ■ 水晶体の森 ※1 大いびき広場(幼児が遊べるエリア) ■ 卓球場 ■ ボルダリングボード ■ 歩くスキーコース(全長2km) ■ 茶室 ■ 森の家(土間スペース) ■ キッズルーム ■ 森のわんぱくひろば(屋外の子供が遊べるエリア) ■ クラウドウォール ■ 卓球場(6台) 																																			

施設一覧

たいせつ

1. 大雪青少年交流の家

大雪山国立公園内に位置し、壮大な山々、原生林に囲まれた自然豊かな環境にあります。四季折々の自然が楽しめる「登山」や「ハイキング」といった研修プログラムを実施しているほか、冬には地域の特性を活かして「クロスカンリースキーコース」も設置しています。

〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金温泉
TEL 0166-94-3121 / FAX 0166-94-3223



<https://taisetsu.niye.go.jp>

ひだか

2. 日高青少年自然の家

札幌、旭川、新千歳空港から車で2時間圏内に位置し、ラフティングや沢のぼり等の川あそびをはじめ、たき火や野外炊事、スキーやスノーラフティング等、一年を通して豊かな自然を満喫できるアクティビティを提供しています。

〒055-2315 北海道沙流郡日高町字富岡
TEL 01457-6-2311 / FAX 01457-6-3934



<https://hidaka.niye.go.jp>

いわてさん

3. 岩手山青少年交流の家

デンパーク(愛称)は、岩手山の自然豊かな山裾に位置しています。登山、キャンプ、野外炊事や冬はそり遊びなど四季を通じた自然体験活動のほか自然素材を活かした創作活動、キャップハンディ体験、南部曲り家を使用した活動などができます。

〒020-0601 岩手県滝沢市後 292
TEL 019-688-4221 / FAX 019-688-5047



<https://iwate.niye.go.jp>

7. オリンピック記念青少年総合センター

都会の中心にありながら、緑豊かな森に囲まれた施設です。青少年及び青少年教育指導者等の各種研修や文化・芸術、スポーツ、国際交流等、幅広い体験の場と機会を提供する国内最大の都市型青少年教育施設です。

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL 03-3469-2525 / FAX 03-3469-2277



<https://nyc.niye.go.jp>

あかぎ

8. 赤城青少年交流の家

上毛三山(赤城山・榛名山・妙義山)の一つ赤城山麓の標高約530メートルに位置し、四季を通じて豊かな自然環境に恵まれ、体験と交流の場を提供することにより、共に学びあえる施設づくりに努めています。

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 27
TEL 027-289-7224 / FAX 027-289-7226



<https://akagi.niye.go.jp>

しんしゅうたかどお

9. 信州高遠青少年自然の家

中央・南アルプスを望み、高遠城址のコヒガンザクラで知られる伊那市高遠町の晴ヶ峰高原に位置し、白樺や唐松林に囲まれたログハウスやロッジが点在しています。「自然の豊かさを見つけよう 考えよう 味わおう 楽しもう」をスローガンに様々な体験活動を支援しています。

〒396-0301 長野県伊那市高遠町藤沢 6877-11
TEL 0265-96-2525 / FAX 0265-96-2151



<https://takato.niye.go.jp>

わかさわん

13. 若狭湾青少年自然の家

大陸とつながる「海の道」の玄関として栄えた若狭湾。リアス式海岸が続く若狭湾のほぼ中央に位置し、舞鶴若狭道上中 IC から約15分です。目の前に広がる雄大な若狭湾を舞台に、カッター、シーカヤック、スノーケリングなどを通して海の魅力を体験できる施設です。

〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
TEL 0770-54-3100 / FAX 0770-54-3023



<https://wakasawan.niye.go.jp>

ちゅうおう

14. 中央青少年交流の家

世界文化遺産に登録された富士山を間近に望み、首都圏や中京圏からも近く、富士山麓トレッキング、野外炊事、SDGs ミッションウォークラリーなどの多様な体験活動ができます。また、大小の研修室やクロスカンリースキーコース(1.6km)等のスポーツ設備も充実しており、学びや活動の場として最適です。

〒412-0006 静岡県御殿場市中畑 2092-5
TEL 0550-89-2020 / FAX 0550-89-2025



<https://fujinosato.niye.go.jp>

のりくら

15. 乗鞍青少年交流の家

北アルプス乗鞍岳を背景に、白樺林に囲まれた乗鞍高原に位置し、四季を通して清浄な大自然を満喫できます。夏は標高1,510mの高地での陸上トレーニング、冬は飛騨高山スキー場と直結したゲレンデでスキー活動が行えます。

〒506-0815 岐阜県高山市岩井町 913-13
TEL 0577-31-1013 / FAX 0577-31-1025



<https://norikura.niye.go.jp/norikura>

さんべ

19. 三瓶青少年交流の家

島根県の中央部、国立公園三瓶山の自然林の中に位置しています。この豊かな自然環境の中で、登山、サイクリング、歩くスキー、スノーシュー、かんじきハイキングなど四季を通じ、様々な自然体験活動が実施できます。

〒694-0002 島根県大田市山口町山口 1638-12
TEL 0854-86-0319 / FAX 0854-86-0458



<https://sanbe.niye.go.jp>

えたじま

20. 江田島青少年交流の家

広島湾に浮かぶ風光明媚な江田島に位置し、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境の中で、カッター研修などの海洋研修、学習活動やスポーツ活動、野外活動など多様な活動を通して、青少年の自主性や意欲を育てています。

〒737-2126 広島県江田島市江田島町津久茂 1-1-1
TEL 0823-42-0660 / FAX 0823-42-0664



<https://etajima.niye.go.jp>

やまぐちとくぢ

21. 山口徳地青少年自然の家

山口県のほぼ中央、長門峡県立自然公園内に位置しています。中国自動車道徳地ICから約15分です。県内最大級の天体望遠鏡による天体観測、ハイキングなどの野外活動の他、人間関係を築く力を高める体験学習プログラムが人気です。

〒747-0342 山口県山口市徳地船路 668
TEL 0835-56-0113 / FAX 0835-56-0130



<https://tokuji.niye.go.jp>

いさはや

25. 諫早青少年自然の家

長崎県と佐賀県にまたがる多良山系の中腹に位置し、眼下には諫早平野や雲仙、遠くは天草が見えます。沢登りや、五家原岳登山、オリエンテーリングなどの自然体験活動の他、林間でのランニングや屋外バスケットコートを利用したスポーツ活動もできます。

〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町 1109-1
TEL 0957-25-9111 / FAX 0957-25-9115



<https://isahaya.niye.go.jp>

あそ

26. 阿蘇青少年交流の家

九州のほぼ中央、阿蘇五岳の懐に抱かれた阿蘇くじゅう国立公園内に位置し、先人の暮らしから受け継がれた千年の大草原をフィールドに、登山やオリエンテーリング、ハイキングなど大自然を満喫できる体験活動プログラムを実施しています。

〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1
TEL 0967-22-0811 / FAX 0967-22-0814



<https://aso.niye.go.jp>

おおすみ

27. 大隅青少年自然の家

鹿児島県の大隅半島のほぼ中央、夕暮れ時には黄金の夕日に染まる錦江湾(鹿児島湾)を眼下に望み、高隈山系の山裾に位置しています。カヌーやゴムボート活動、登山やハイキングなど、海・山・川での自然体験活動を実施しています。

〒891-2396 鹿児島県鹿屋市花里町赤崩
TEL 0994-46-2222 / FAX 0994-46-2540



<https://osumi.niye.go.jp>

はなやま

4. 花山青少年自然の家

東北地方のほぼ中央に位置し、宮城・岩手・秋田県にまたがる栗駒山南麓の雄大な自然の中にあります。栗駒山系の豊かな水環境を全身で感じる「沢活動」をはじめ、四季折々の大自然をまるごと使った冒険活動、環境学習活動等のプログラムを用意しています。

〒987-2593 宮城県栗原市花山字本沢沼山 61-1
TEL 0228-56-2311 / FAX 0228-56-2469



<https://hanayama.niye.go.jp>

ぼんだい

5. 磐梯青少年交流の家

磐梯朝日国立公園の磐梯山南側に位置し、眼下には雄大な猪苗代湖を望み、近くには多くの湖沼群を有する裏磐梯などの豊かな自然環境が広がっています。登山やハイキング、スキー、天体観測、会津の歴史探訪、防災・減災教育などを提供しています。体験活動を通して様々な“感動”を得ることができます。

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1
TEL 0242-62-2530 / FAX 0242-62-2532



<https://bandai.niye.go.jp>

なすかし

6. 那須甲子青少年自然の家

日光国立公園内に位置しています。福島県の甲子高原と栃木県の那須高原に広がる広大な敷地には阿武隈川源流や豊かな森が広がっています。登山、沢歩き、雪あそびなど豊かな感性を育む自然体験活動が充実しています。

〒961-8071 福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1
TEL 0248-36-2331 / FAX 0248-36-2150



<https://nasukashi.niye.go.jp>

みょうこう

10. 妙高青少年自然の家

妙高戸隠連山国立公園内に位置しており、春から秋にかけては敷地内を流れる川の探検やハイキング、冬は豊富な雪を利用したスキー(アルペン・クロスカントリー)やスノーシューハイク、仲間づくりプログラム(通年)など、四季を通じて様々な体験活動プログラムを提供しています。

〒949-2235 新潟県妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 / FAX 0255-82-4325



<https://myoko.niye.go.jp>

たてやま

11. 立山青少年自然の家

立山連峰のふもとに位置しています。登山や600mm望遠鏡、プラネタリウムでの星空観察など、周辺の自然環境を活かしたプログラムがあります。特に幼児を対象とした自然体験活動「立少トントンたんけん隊」を推進しています。

〒930-1407 富山県中新川郡立山町芦崎寺字前谷1
TEL 076-481-1321 / FAX 076-481-1430



<https://tateyama.niye.go.jp>

のと

12. 能登青少年交流の家

能登半島入口の羽咋(はくい)市にあり、日本海を間近に望み豊かな自然環境を持つ肩台地に位置しています。里海・里山を活用した多彩な体験活動プログラムを提供しています。

〒925-8530 石川県羽咋市柴垣町 14-5-6
TEL 0767-22-3121 / FAX 0767-22-3125



<https://noto.niye.go.jp>

そに

16. 曾爾青少年自然の家

奈良県・三重県境にある室生赤自青山国立公園内のスキーが一面に広がる曾爾高原に位置しています。周辺の自然環境を活かしたハイキングや森林環境学習のほか、野外炊事やキャンプファイヤーといった体験活動プログラムを提供しています。

〒633-1202 奈良県宇陀郡曾爾村太良路 1170
TEL 0745-96-2121 / FAX 0745-96-2126



<https://soni.niye.go.jp>

あわじ

17. 淡路青少年交流の家

淡路島の南端に位置し、白砂青松100選に選ばれた吹上浜を見渡すことのできる場所にあります。人気のカッター研修や防災・減災について体験を通して学べる「防災・減災クエスト」などバリエーション豊かな体験活動プログラムを提供しています。

〒656-0543 兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39
TEL 0799-55-2695 / FAX 0799-55-0463



<https://awaji.niye.go.jp>

きび

18. 吉備青少年自然の家

岡山県のほぼ中央、吉備高原の標高300mから360mに位置しています。敷地内の人造湖「鳴滝湖」や赤松林に囲まれた豊かな自然を活用した、カッター・ハイキング・オリエンテーリング等様々な体験活動を行っています。

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4393-82
TEL 0866-56-7231 / FAX 0866-56-7235



<https://kibi.niye.go.jp>

おおず

22. 大洲青少年交流の家

四国の西に位置し、伊予(愛媛)の小京都と呼ばれる「大洲」には清流「肱川」がのどかに流れ、その肱川でのカヌー体験活動をメインに、四季折々の豊かな自然の中で野外活動や文化的な活動及びスポーツ活動が実施できます。

〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086
TEL 0893-24-5175 / FAX 0893-24-2909



<https://ozu.niye.go.jp>

むろと

23. 室戸青少年自然の家

室戸岬を南に望み、豊かな緑に囲まれた環境にあり、多様な自然体験活動を通して、問題を解決する能力や、豊かな感性を育むプログラムを実施しています。シーカヤックや磯観察といった海活動も充実しています。

〒781-7108 高知県室戸市元乙 1721
TEL 0887-23-2313 / FAX 0887-23-2484



<https://muroto.niye.go.jp>

やすこうげん

24. 夜須高原青少年自然の家

福岡県の中央に位置し、都市部からもアクセスしやすい場所にあります。四季を通じていろいろな動物や植物、昆虫をみることで、また、フィールドビンゴやオリエンテーリングなど、手軽に自然を楽しめます。晴天時には200mm天体望遠鏡で月や土星などを観察できます。

〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山 1103
TEL 0946-42-5811 / FAX 0946-42-5880



<https://yasu.niye.go.jp>

おきなわ

28. 沖縄青少年交流の家

那覇泊港から高速船で40分の渡嘉敷島にあり、国立公園に指定された慶良間ブルーの海と白砂のビーチでスノーケリング等の海洋研修が年間を通して体験できます。また、離島ならではの星空観察やスポーツ合宿、平和学習も実施できます。

〒901-3595 沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷 2760
TEL 098-987-2306 / FAX 098-987-2318



<https://okinawa.niye.go.jp>



全国の国立青少年教育施設のご案内

- 青少年交流の家
- 青少年自然の家
- オリピック記念青少年総合センター

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① 大雪青少年交流の家 | ⑩ 曾爾青少年自然の家 |
| ② 日高青少年自然の家 | ⑪ 淡路青少年交流の家 |
| ③ 岩手山青少年交流の家 | ⑫ 吉備青少年自然の家 |
| ④ 花山青少年自然の家 | ⑬ 三瓶青少年交流の家 |
| ⑤ 磐梯青少年交流の家 | ⑭ 江田島青少年交流の家 |
| ⑥ 那須甲子青少年自然の家 | ⑮ 山口徳地青少年自然の家 |
| ⑦ オリピック記念青少年総合センター | ⑯ 大洲青少年交流の家 |
| ⑧ 赤城青少年交流の家 | ⑰ 室戸青少年自然の家 |
| ⑨ 信州高遠青少年自然の家 | ⑱ 夜須高原青少年自然の家 |
| ⑩ 妙高青少年自然の家 | ⑲ 諫早青少年自然の家 |
| ⑪ 立山青少年自然の家 | ⑳ 阿蘇青少年交流の家 |
| ⑫ 能登青少年交流の家 | ㉑ 大隅青少年自然の家 |
| ⑬ 若狭湾青少年自然の家 | ㉒ 沖縄青少年交流の家 |
| ⑭ 中央青少年交流の家 | |
| ⑮ 乗鞍青少年交流の家 | |



交通案内(機構本部)

- 電車 小田急線各駅停車 参宮橋駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
- バス 京王バス 代々木5丁目バス停下車 徒歩約1分
- 車 首都高速4号線 代々木出入り口約100m
(大型バス) 新宿出入口 約2 km



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構



〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-3467-7201(代表)
<https://www.niye.go.jp>